

地区大会雑感

私にとって今秋の地区大会は、学校単位での部活動というものについて考えさせられるものになりました。球場からそんなに離れていないのに貸し切りバスで来ている高校がありました。今日はバスですか？聞いたところ衝撃的な答えが・・・サッカー部やバスケット部の生徒を借りて出場していて、交通費の負担はさせられないし、●●球場に集合と言っても場所を知らない生徒がいるので・・・(仕方なく学校集合という形にしてバスで球場へ・・・) 公立高校の部活動はそこまで厳しくなっているのか・・・考えさせられました。

秋の地区大会、東西南北4地区、計92試合が行われ、半分以上の52試合がコールドゲームでした。チーム同士の实力差(ハッキリ言ってしまえば公立と私立の差)がさらに開いていると感じました。大会の運営方法を考えなければならない時が近づいているというのが率直な感想です。

とにかく実戦を

「練習でしたことしか試合では出ない(あるいは出せない)」指導者というのはよくこのような言葉を使います。しかしこれは間違いなくウソです。練習を頑張らせたいために指導者がつくウソだと私は思っています(実戦というのは実力以上のものがでることが間違いなくあります)。

先日の大会、市高の1年生がホームランを打ちました。それは、練習ではまったく見たことの無い打球でした。ハッキリしています。試合(実戦)だから打てたのです。実戦での成功体験というのは特別嬉しいもの→また味わいたい→味わうには練習するしかない。好循環とはこのようにして生まれることを指導者が把握しているか・・・
よって、私がすべきことは簡単、実戦経験を選手達に少しでも多く積ませることなのだと思います。

練習試合は基本、休日の活動になるので私も大変ですが・・・精一杯頑張らせていただきます。

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R 7 . 9 . 1 6

発行ナンバー 1 2 1 6 号

(鈴木主将の代・・・18号)

加速させるまでのエネルギー

チームづくりには根気強さやエネルギーが必要です。そのエネルギーにも様々な種類のものがあると思いますが、一番大変なのは車に例えると、走るんだか走らないんだか分からない車のエンジンをかけ発進させ加速させるエネルギーだと思います。なぜこんなことを書いているかというと、先日まで行われていた新人大会や地区大会、これまで単独出場出来ていなかったチームを何とか単独出場(発進)できるようにして、そのチーム力を充実(加速)させようとしている指導者の方が何名かいらしたからです。

実は私も似たような経験を初任校でしています。練習試合で42点取られたことがありました。アウトをとることが出来ず、終わらない守備の時間を選手が誰もいないベンチで(選手はちょうど9名)部長先生と1名のマネージャーと私の3人で過ごしました。その時期、試合での目標というのは勝つとかそういうものではなくて、無事に終わらせるというものでした。でも・・・そんな初任校で私は公式戦2勝することが出来ました。私にとって死ぬまで絶対に忘れない2勝になりました。車が動いた時の喜び・・・それは本当に嬉しいものだったのです。

そのような指導者の方のチームが今後どのような感じになっていくのかに注目したいと思いますし、そのような指導者の方に負けないよう、市立浦和高校野球部も強化に励みたいと思います。

高校野球の試合結果等に関して、そのような視点からも見ていただければと思います。現時点では分かりづらいと思いますが、頑張っているチーム(指導者の方)が存在しています。